科目ナン	バリン	グ U-1	U-LAS02 10008 LJ36							
授業科目 <英訳>		国語国文学II Japanese Philology and Literature II					当者所属 人間・環境学研究科 教授 佐野 宏 名・氏名			
群	人文・社会科学科目群 分野(分類) 芸術					・文学・言語(基礎)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コ	マ	授業	形態 講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2024・後期		曜時限 火5			配	当学年	全回生	対象学	生全学向

[授業の概要・目的]

日本文学における代表的な古典から、とくに萬葉集を講読する。萬葉集全二十巻を巻毎に取り上げ つつ、和歌を抄出して講読する。各巻の概要や部立てのあり方、歌学における萬葉歌の享受史に触 れながら、日本古典研究の基礎的な知識の習得を目的とする。ゆったりと萬葉歌の鑑賞を行う予定 である。

なお、今期は巻13および巻14に関説して、防人歌を中心に取り上げる。「防人は還ったか」という 問いのもとに、防人歌が挽歌の変容として位置づけられるかを検討する。そして、巻15の遣新羅使 らの歌群、中臣宅守と娘子の在り方が、生別と死別の境界にどのように位置づけられるかを考える。

[到達目標]

萬葉歌について一般的な解釈を踏まえつつ、自らの審美眼で作品を鑑賞できるようになることを目的とする。

[授業計画と内容]

- 1 万葉集について
- 2 万葉集の諸本について
- 3 万葉集の注釈書類概説
- 4 万葉集の研究史概説 中世まで
- 5 万葉集の研究史概説 近世以降
- 6 万葉集各巻の概説
- 7 万葉集を読む 1 巻十五を中心に修辞技法について概説しつつ講読する。
- 8 万葉集を読む2 巻十五を中心に修辞技法について概説しつつ講読する。
- 9 万葉集を読む3 巻十五を中心に修辞技法について概説しつつ講読する。
- 10 万葉集を読む4 巻十五を中心に修辞技法について概説しつつ講読する。

巻15・3644~3658を講読するが、3659以降については「月」の扱いも含めて周辺の関連資料を講 読することがある。

- |11 万葉集を読む5 遣新羅使人歌群の構造について考える(素材の対応I)。
- |12 万葉集を読む6 遣新羅使人歌群の構造について考える(主題の対応I)
- |13 万葉集を読む7 主題の重ねあわせと本歌取りの淵源について
- 14 万葉集を読む8 「歌群論」の諸問題再説。確認試験。
- 15 フィードバック

レポート試験は、事前に課題を与えるので、その課題について講義内容を踏まえて自ら調査分析をし、レポートにまとめておくことを求めます。

|詳細は講義中に指示をします。また、上記の7~10間で小テストを行います。

______ 国語国文学II(2)へ続く

国語国文学II(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義期間の最終日に基礎的な事項の確認試験を行う(60%)。時折、講義中に小テストを行うほか、 授業への積極的な参加度(40%)を総合的に加味して評価する。

[教科書]

井手至、毛利正守 『新校注 萬葉集』(和泉書院)

坂本信幸、毛利正守 『萬葉事始』(和泉書院) ISBN:978-4-87088-728-2

上記テキストを持参しているものとして講義を行う。

[参考書等]

(参考書)

内田賢徳 『萬葉の知』(塙書房) ISBN:978-4827335941

『萬葉の知』はとくに巻13と記紀歌謡、挽歌と相聞の質的な関係を考える上で示唆に富む。なお『セミナー万葉の歌人と作品』(和泉書院)のシリーズのうち、講義で該当する箇所を予め通読しておくことが望ましい。

[授業外学修(予習・復習)等]

プリントを配付するので、次回分については注釈書類を用いて通釈を読んでおくこと。その場合、 新編日本古典文学全集、新日本古典文学大系、岩波文庫本の三種類の通釈(現代語訳)を比べて、 どこが異なるかを確認しておくとよい。

[その他(オフィスアワー等)]

火曜日3コマ目、木曜日の4コマ目をオフィスアワーにします。木曜日は会議が入りやすいので、事前に確認してください。